

第14回(令和6年度)ちばコラボ大賞

1次審査通過事例

※表彰事例を除く

惜しくも表彰とはなりませんでした、とても素晴らしい活動に取り組まれている事例をご紹介します。

まちなか先生と創る 養老溪谷プロジェクト

～大学生が考える地域観光とその人材～

●活動の概要

市原市養老溪谷地区の関係人口創出を目的としたプロジェクト型授業。令和5年度は、地域の若手人材に「まちなか先生」になってもらい、大学生とともに地域の魅力を再発見するハイキングイベントを開催しました。令和6年度以降も課題解決のための取組を継続しています。



●実施団体

まちなか先生と創る 養老溪谷プロジェクト(城西国際大学観光学部、市原市地方創生部 観光・国際交流課、まちなか先生(開宅舎、OIKAZE、ぽんちゃん)、小湊鉄道株式会社、株式会社千葉銀行、ちばぎん商店株式会社)

SDGs子どもクッキング

～もったいないをなくして美味しく食べる～

●活動の概要

松戸市で、子どもたちにSDGsを理解してもらうために、地域の商店会や八百屋で売り物にならなくなった食材を提供してもらい、大学生も協力して料理教室を開催しています。助言は最低限にするよう心がけ、子どもたちの自由な発想を尊重しています。



●実施団体

松戸市新松戸地区社会福祉協議会、流通経済大学ダイバーシティ共創センター、松戸市新松戸商店会連合会

入ると自然と防災に興味がわく 教室を小学校に作ろう!

～鎌ヶ谷市立南部小学校における
防災展示教室製作プロジェクト～

●活動の概要

小学校の空き教室を、鎌ヶ谷市の防災備蓄倉庫を兼ねた「児童が自ら興味を持ち、知識が身に着く防災展示教室」とする企画を、大学生が主体となって実施しました。防災展示教室は常設の施設として、今後も児童への防災教育に活用していきます。



●実施団体

鎌ヶ谷市民生活部安全対策課、淑徳大学地域共生センター、鎌ヶ谷市立南部小学校

あさひ街ぶら芸術祭

～芸術が育む、ずっと大好きなまち旭～

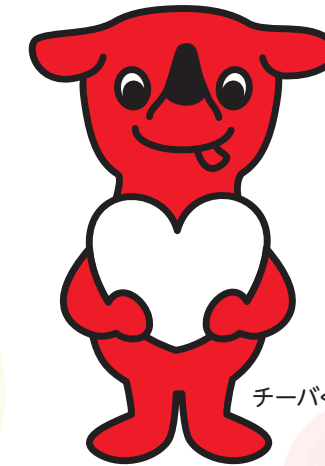
●活動の概要

旭駅前商店街の賑わいを創出するために、人々の交流、健康づくりにも役立つイベントとして、駅周辺の空き店舗、営業店舗等を会場に芸術作品を展示し、ウォークラリー形式の芸術祭を開催しました。来年度以降も同様の取組を継続し、アートを利用したまちづくりを進めています。



●実施団体

あさひの芸術祭実行委員会、旭七夕市民まつり実行委員会、旭市(CCDプロジェクト歩きたくなるまちチーム)



チーバくん

第14回(令和6年度)

ちばコラボ大賞

表彰事例の紹介

県内には、福祉や環境、子育て、まちづくりなどの様々な分野で、市民活動団体や企業、学校、地縁団体、行政機関等が連携して、それぞれの特性を活かしながら地域の課題解決に取り組むことで、成果をあげている事例がたくさんあります。

県では、そのような連携事例の中から、他のモデルとなるような優れた事例を「ちばコラボ大賞(千葉県知事賞)」として表彰しています。

第14回目となる令和6年度は、県内各地から22件の応募があり、審査の結果、3件を表彰事例に決定しましたので御紹介します。



令和7年度の募集も、6月頃から開始する予定です。
その他詳細は、千葉県ホームページ「ちばコラボ大賞」をご覧ください。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/kkbunka/collabo/index.html>



令和7年3月 編集・発行

千葉県環境生活部県民生活課 〒260-8667 千葉県千葉市中央区市場町1-1
TEL: 043-223-4133 FAX: 043-221-5858 E-mail: npo-vo@mz.pref.chiba.lg.jp

千葉県

表彰事例

1

人と人とのつながりや、心の関わりを大切にした地域交流拠点事業

～こどもを中心に繋がる地域の輪～

●活動の概要

NPO法人、幼稚園、自治会、企業・団体、大学、行政が連携し、地域の幼稚園の園庭を活用した、月1回のこども食堂や、こどもの居場所づくりの取組を行うほか、毎月2回、地域の人々が集まるコミュニティサロンを開催しています。周囲との連携や協力体制を築き、乳児から高齢者までの誰もが安心して訪れやすい拠点を目指して、地域の中で人と人との心が繋がる新たなコミュニティを創出しています。

●評価のポイント

子どもの貧困の問題だけではなく、活動の中から高齢者の孤独の問題にも着目し、取り組まれている点や、行政、企業、自治会、大学等、地域の幅広い団体と連携しており、取組として広がりがある点が高く評価されました。

●実施団体

特定非営利活動法人せんなり村、学校法人千成学園幼保連携型認定こども園千成幼稚園、千成自治会、佐倉ライオンズクラブ、佐倉ロータリークラブ、岩瀬薬品株式会社、株式会社常磐植物化学研究所、株式会社ジョイネット、株式会社ジィ・シー企画、株式会社わくわく広場、JA千葉みらい佐倉中央支店、敬愛短期大学 現代子ども学科、佐倉市企画政策部企画政策課、さくらあったか食堂ネットワーク



表彰事例

3

茂原七夕まつり70thゴミ減プロジェクトwithペットボトルキャップリサイクルで”未来を変えるCapoon!!”企画・製造・販売

～住み続けられる街づくりとサーキュラーエコノミーの実現を目指して～

●活動の概要

学校、商工団体、企業、行政が連携し、茂原七夕まつりのごみ問題解決に向けた、ペットボトルキャップを再生利用したリユースできるスプーン“未来を変えるCapoon(キャプーン)!!”の企画・製造・販売、分別ごみ箱の制作・設置。七夕まつりのごみを減らし、住み続けられる街づくりとサーキュラーエコノミーの実現を目指す取組です。今後は、海洋プラスチックゴミを再利用する取組の実施も予定しており、継続的に取り組んでいます。

●評価のポイント

学校として地域に根差した取組を推進する中で、「茂高街塾」というプラットフォームを構築し、企業や商工団体、行政が連携し、まちぐるみで街づくりをする中で、茂原が誇る地域資源「七夕まつり」を題材に、生徒たちがまちの産業を知って大事にしよう、自らの学びにしていこうという気持ちで取り組んでいる点が高く評価されました。

●実施団体

千葉県立茂原高等学校 Team茂高街塾、茂原商工会議所、昌和プラスチック工業株式会社、房総サーキュラーエコノミー推進協議会、旭紙業株式会社、茂原市経済環境部環境保全課



表彰事例

2

みんなの心のよりどころ「ホッとステーション」

●活動の概要

山武圏域・千葉県内の多様な機関・団体と協同し、いたるところに『気軽に居てもいい』居場所（ホッとステーション）を設置。ベンチ若しくはステッカー等の設置により協同機関となることのできる仕組みを取っており、夏期は「クールステーション」として避暑場所にもなっています。市町村の枠を越えて地域の誰もが活用できるとともに、協同機関同士のネットワークや相互連携が図れる、人と社会が共に繋がる地域社会の実現を目指す取組です。

●評価のポイント

ベンチ、ステッカー等を設置することで居場所やコミュニケーションの場を作る取組は、地縁・血縁が薄れている現代で、人とのつながりを生む新たなモデルになります。生活圏に着目して市町村域を超えて取り組んでいる点や、2～3年というごく短期間で119もの機関・団体を巻き込む仕組みも高く評価されました。

●実施団体

みんなの心のよりどころ「ホッとステーション」
ホッとステーション協同機関
119機関（令和6年7月末現在）
（事務局：特定非営利活動法人リンク）



表彰式及び事例発表・交流会

令和6年12月12日にホテルプラザ菜の花で表彰式及び事例発表・交流会を開催しました。表彰式では、熊谷知事から「いずれの事例も地域の愛着を育てながら地域課題の解決に当たっている素晴らしい取組であり、皆様方に敬意と感謝を申し上げたい。」とのメッセージがありました。

事例発表・交流会では、受賞団体による事例発表、審査委員長である千葉工業大学創造工学部鎌田元弘教授による講演に加え、受賞団体と参加者及び参加者同士が自由に交流する交流会を開催しました。

